

THE YOMIURI SHIMBUN

読賣新聞

2014年(平成26年)

10月26日 日曜日

「女性のがん」予防考える

橋本で市民講座 三原議員ら講演

女性のがんの予防法などについて考える市民公開講座「女性特有のがん(乳がん・子宮頸がん) 検診率向上をめざして」(読売新聞和歌山支局など後援)が橋本市高野口町の市産業文化会館で開かれ、患者やその家族ら約300人が医療関係者らの講演に聴き入った。

紀和病院の「紀和ブレスト(乳腺)センター」などでつくる実行委員会が企画した。

18日に開かれた公開講座では、奥村マタニティクリニックの池島美和医師が子宮頸がんを引き起こすウイルスなどについて解説。「日本の検診の受診率は先進国ではかなり低い。がんの早

期発見のため、定期的に検診を受けてほしい」と呼びかけた。

また、梅村定司・同センター長は、乳がんと遺伝子との関係や、シリコーンなどを使った乳房再建術などについて語り、「予防のため禁煙やバランスのとれた食事、適度な運動を心掛けよう」と訴えた。

この後、三原じゅん子参院議員が基調講演を行い、自身が子宮頸がんを患った際の闘病生活を振り返りながら、「子どもに対するがん教育や、患者を支援する政策を充実させる必要がある」と強調した。

夕方からは、慈尊院(九度山町)の多宝塔を乳がん撲滅のシンボルカラーのピンク色にライトアップ。患者らは境内に約300本のろうそくを並べて火をともし、がんで亡くなった人たちを追悼した。



自身の闘病生活などについて語る三原議員(橋本市で)